

経済産業省 資源部

東北の鳥海山のふもとで掘り出した神代杉の巨木がこのほど、富士市大淵の木材総合商社・(株)マルダイ(深沢一元社長)に入り、話題になっている。今から二千四百六十一年前に埋没したまま眠り続けていたという、この神代杉。世紀末によりがえり、二十一世紀に生きるために同社の土場にじつと身を横たえている。

入荷した神代杉は三本。この一本の輸送の際のところは、製品化の鳥海山のふもとの現場にだけで二十トントレーラー段階で輪切りにして年輪社長が直接、出掛けて埋が必要だった。没年代を確認したうえで、推定樹齢は「およそ一買い付けたという。土中千年ぐらいいはないか」。総務部長は「掘り出した三、四割から掘り出した(深沢社長)というから、現場は秋田県側の寒冷地中で、最大級のもは、通算すると三千四百年以上だけ年輪は細かく刻ま根元の直径がらくに二倍以上は経ている勘定だ。他、長い年月を経ているを超え、高さ十以上余りの二本も推定樹齢六百と見る。部分で先端がもぎとられ、八百年と見られるが、実

# 紀元前の神代杉 世紀末に復活



入手した中の最大級の神代杉と深沢社長=マルダイ

秋田・山形県境 鳥海山のふもとで掘る

## 2461年前に埋没した

巨木3本 (株)マルダイが入手 売り値は2,3千万円(1本)

説があった。今年になって奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター発掘技術研究室の光谷拓実室長が土中の杉の古木(神代杉)の年輪を分析した結果、発生年代を「二千四百六十一年前」と特定した。ちょうど縄文晩期に相当する。

今、掘り出されている巨木はその時の巨大な岩なだれでなぎ倒され、埋没したもので、マルダイに入った神代杉はその一部というわけ。

「それにしても…」と高橋部長は「土中の保存条件が合わなければとくに腐ってしまうはず。よく今日まで無事だったものと感心する」としみじみ。

### イベントに向け

ところで、肝心の建材としての使い道となることが限られる。土の成分がすっかりしみこみ、製材しても相当の渋い黒みが取れないので、その価値は「知る人ぞ知る」といったところ。

しかし、三本の神代杉は二千万円から三千万円で売り出すが、それでも引き合いは少なくない。既に中級規模の一本は清水市の業者に売却済みという。中には、この神代杉の使用を前提に全体の設計を考える、という業者もある。

鳥海山には「大噴火」説と「岩なだれ」説があり、噴火または、なだれの発生年代も、二千六百年前説と三千年前説の両

経済産業省 資源部